

えんちょう通信

No.9 5

令和 5年 4月 26日
福島市立清水幼稚園
発行者 佐藤 一男

子どもの成長を見つけて、喜ぶということ



幼稚園では木曜日の午後に職員全員で打ち合わせを行い、その後に先生方で保育について振り返る時間をとっています。

先週の4月20日(木)には、入園して10日目の4歳児、ちゅうりっぷ組の子どもたちが、ラーメン屋さんごっこをしている様子について、写真を見ながら話し合いました。その話の中身を少しだけ紹介したいと思います。まず担任の先生が話しました。

「女の子が、黄色い紙をはさみで切ってラーメンの麺を作ろうとしたら、そばにいた男の子が、すぐに紙のお皿を持ってきてあげたんです。」

「そうしたら、それをもらった女の子が『ありがとう』って、すぐに言ったんですよ。とてもいいな、と思いました。」

そうしたら別の先生が、

「そうですね。子どもたちは、(入園した)最初は、どこにいて、どこに座っていいのかわからなかったのに、もう、ちゃんと自分の椅子に座れるようになりましたね。すごいですね。まだ10日しか経っていないのに・・・。」と言います。

さらに先生方からは、いろいろな話が出てきます。

「子どもたちも、先生からいろいろなものの名前を覚えてもらったり、友だちと話したりして、言葉で思いを伝えることができるようになりましたね。」

『『アイスもありますよ。』』とか『ジュース、できたよ。どうぞ。』』などと、言えるようになって、子どもたちの世界がどんどん広がっているなと思います。」

「子どもたちは、(友だちや先生の)真似をして学んでいくことって、いっぱいありますね。」「やっぱりたくさん友だちがいると、いいですよ。集団には力がありますね。」

こんなふうに、先生方は、子どもたちが椅子にちゃんと座れたとか、「ありがとう」と言えたとか、そういう子どもたちの小さな変化や成長を見つけて、本当に嬉しそうに話をします。

「この子は、きっとできるようになる」という、子どもの可能性を信じるあたたかな「まなざし」があってはじめて、子どもたちの成長や変化は見えてくるのだと思います。

子どもたちの小さな成長を見つけられる、そして、それを自分のことのように喜ぶことができるのが、「教師の専門性」なのかもしれません。

短い時間ですが、こういう研修を丁寧に積み重ね、保育の質を高めていきたいと思っています。